



Weekly Report Niigata



地域を育み、大陸をつなぐ

2010～2011 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 3 月第 2 例会 (2011.3.8) No.2887

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 樋熊 紀雄会長挨拶

先週は、所用があり、理事会の後、例会は欠席しました。今月は出席率 100% を目指して出席委員会にお願いし取り組んでいただいているところです。そんな中、欠席とは、無責任というところでしょうか、既にメイクアップもしておりますので、ご迷惑はかけない積もりです。先週小山副会長さんから、e-Club one のご案内があったと思います。その後に e-Club one によるメイクアップを済ませた方もおられると聞いています。うまく最後まですすまなかった方は、諦めずにチャレンジしてください。そして 100% を、よろしくお願いします。

さて、3 月は識字率向上月間です。読み書きできない人々が、今もなお大勢いるのは、学校や教材が足りないこと、政府の教育予算が十分でないこと、世界には女性の教育をないがしろにする文化的な偏見など、たくさん原因がありそうです。この問題は、単に紙に書かれた文字を読み解くことが出来ないというだけではすみません。どんどん複雑化する世界の中で、読み書きが出来ない人々は社会の底辺に追いやられることになります。

「識字」は、社会経済ならびに政治的な発展を最も反映していると言われています。低所得者が多い国は、非識字者が多いことからわかるように、貧困と識字は密接に関係していますし、さらにポリオの常在国と非識字も関連しているといわれています。世界の非識字者の 3 分の 2 は女性であり、女性は、子供に接する機会が多く、母親が非識字であればその子供もまた非識字になる可能性が大きくなります。

世界には機能的非識字の人が沢山います。機能的非識字とは、毎日の生活に必要な読み書きの能力を有しないことです。インドでは、交通標識が読めないために、毎年 4 万人の人が交通事故で亡くなっているとのことです。

機能的識字とはなんのでしょうか。「識字」には 3 段階の深さがあります。第 1 は「基本的識字」で、子音、母音を含めたアルファベットをきちんと読めることです。しかし、これだけでは考えることが出来ません。第 2 は、「機能的識字」です。よく考える能力を備えたうえで読み書きでき、コミュニケーションが出来ること。新聞を単に読むことは「基本的識字」であって、それを読んで何を考え、何か行動を起こすことが出来るか、です。文字からの情報に対し

て、物事を判断する能力を備えていてコミュニケーションができることでなければなりません。第 3 は「コンピューター識字」です。コンピューター用語を理解し、コンピューターを使うことができること。しかし、第 2 の機能的識字の能力がなければコンピュータから得た情報を的確に判断することが出来ません。

確かな希望の光として、国際ロータリー (RI) の理事会は、1986 年、識字率向上 10 年間の強調プログラムを設定し、1992 年にはこの期間を 2000 年まで延長することを決めました。1997-98 年度、グレン・キンロス RI 会長は、パストガバナーのリチャード・ウォーカ氏の率いる識字・計算能力向上グループとして CLE (Concentrated Languages Encounter: 集中言語力助長) を使う「ライトハウスプロジェクト」を紹介しました。

CLE 教授法は、現在世界 30 を超える国の学校で採用され、発展を遂げているとのことです。CLE の教師は、アクティビティ (活動)・ベース、またはテキスト・ベースのいずれかの方法を用いて指導します。テキスト・ベースの学習では、生徒がみんなで一緒に文章を読むことから始めます。次に、教師は生徒がその文章の意味を理解するように仕向けます。その後生徒たちがグループでストーリーをまとめるという手順です。この過程で、教師は単語を覚えさせたり、文章の構造を理解させるための演習も行ないます。

アクティビティ (活動)・ベースのプログラムでは、庭作りなどの活動することから始めます。次に、教師と生徒と一緒にその活動をする文章を書きます。どちらの方法もグループ学習が重視されるため、子供達は自然に教え合い、ついていけない生徒がでないようになっています。

2008 年 6 月現在で、ロータリー財団は CLE プログラムに対し 140 件余の補助金を授与、その総額は 3 億円 (330 万ドル) を超えました。これには、3-H すなわち Health, Hunger and Humanity Grants (保健、飢餓追放および人間性尊重) の補助金が含まれ、バングラデッシュ、ブラジル、フィリピン、南アフリカ、タイ、トルコのプロジェクトで複数年に渡って実施される 6 件のプロジェクトが進行中です。その一つとして、フィリピンに CLE を拡大するために、ロータリー財団は 2007 年、第 2680 地区が申請した約 2600 万円 (27 万ドル) の 3-H 補助金を承認しました。今日配布の週報に理事会の報告がございますが、当クラブと姉妹クラブ香港島東クラブとフィリピン Makati North クラブが進めておりますマッチング

グラント “Feed a child, Build Nation “に当クラブが参加できないか本間 WCS 委員長にお骨折りをお願いしているところです。参加可能でありましたら、その際会員の皆様方のご協力よろしく願いいたします。

(3) 高橋 秀松次期幹事より次年度委員会表の発表と協力のお願い

(4) 委員会報告

・川崎 嘉朗地域奉仕委員長より(3月1日報告)
4月16日 公開シンポジウム「“心の叫び”聴こえますか」を13:30よりだいしホールにて開催致します。チラシを配布致しました。どうぞ、ご参加、ご協力をお願い致します。

・宮木勢君へ第1回米山功労者感謝状贈呈

・角田幸市君へマルチプル・ポール・ハリス・フェローピン贈呈

(5) 卓話「虚血性心臓病について」

新潟市民病院循環器科部長 小田 弘隆氏

3月15日の例会予定

卓話「私の感じる新潟」

FM新潟アナウンサー 中村 智景氏

***クライストチャーチ地震への義捐金**

58、520円をガバナー事務局を通して寄付